

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

### 佐賀市立久保泉小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

#### ■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

#### ■ 調査の内容

##### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

##### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

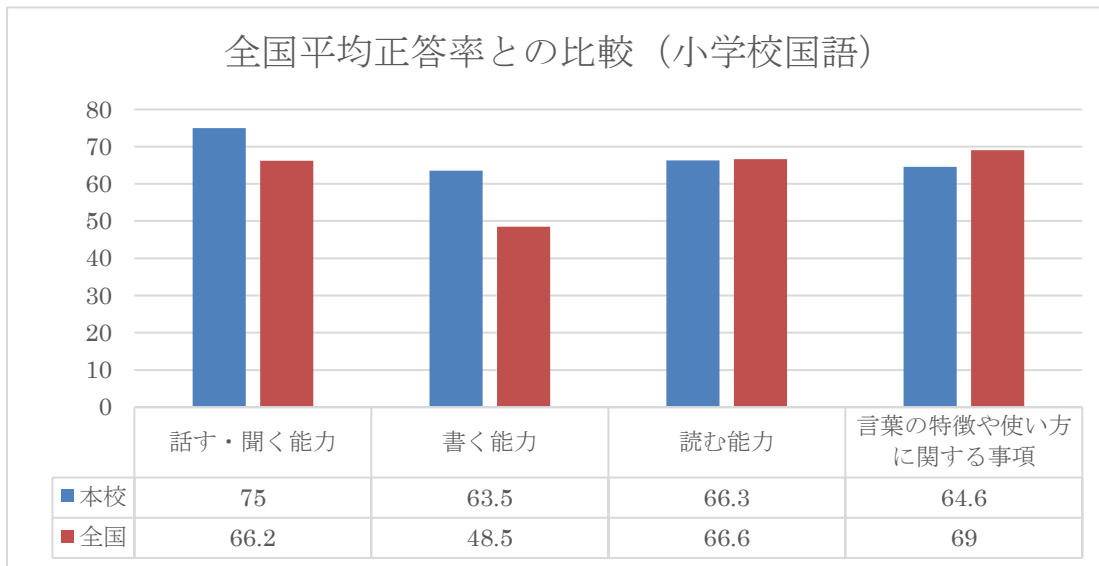
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心, 授業内容の理解度, 読書時間, 勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況など

#### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

「話す・聞く能力」「書く能力」は全国平均を上回っています。「読む能力」は全国平均とほぼ同じ正答率となっています。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均をやや下回っています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査では、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」では、全国平均を20ポイント近く上回っていました。友達との話し合いを通して自分の考えをまとめるという学習を進めた成果が表れています。課題としては、「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」「漢字の読み書き」は、全国平均より下回っていました。読書に慣れ親しむ、漢字のノートだけでなく、普段から学習した漢字を使って文章を書くといった指導をしていきます。

#### (3) 学力向上のための取り組み

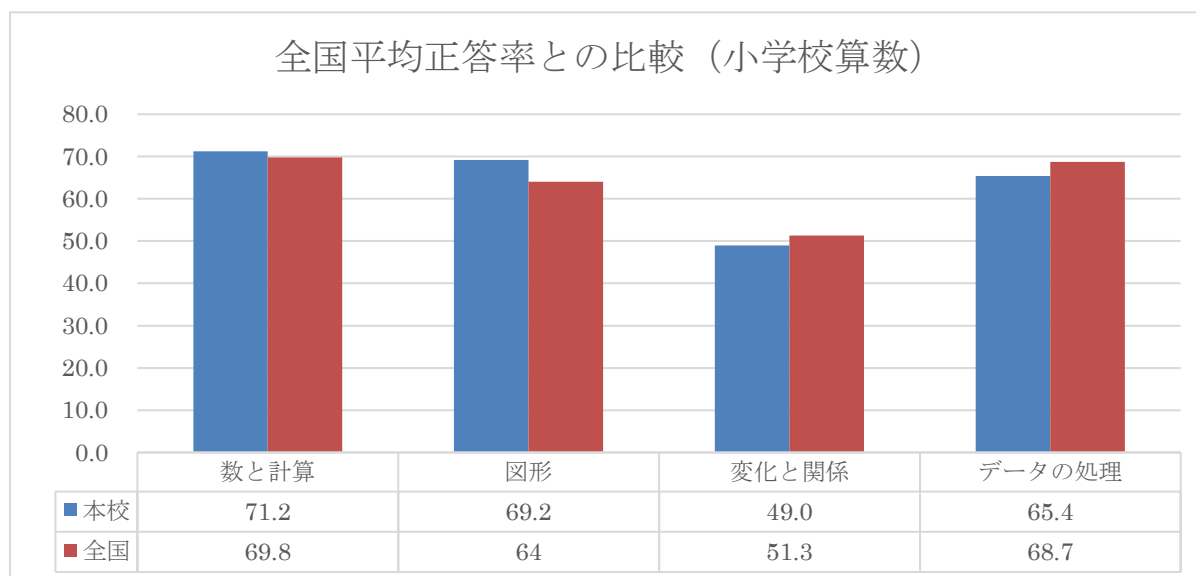
##### 【学校では】

- 自分の意見を言ったり、相手の意見を聞いたりしながら、自分の考えをまとめる場を増やしていきます。
- 説明的文章を要約させる活動に取り組みせ、文章を分かりやすくまとめる指導をします。
- 日記や学習の振り返りなど日常的に書く機会を取り入れることで、書くことに慣れさせます。
- 結論、理由、根拠を明確にしながら意見文を書く学習を行います。

##### 【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。音読を毎日聞いてあげてください。
- お子さんと読書を楽しんでください。分からない言葉の意味や漢字は一緒に調べてあげてください。たくさんの文章や言葉に触れていくことで、語彙力の高まりが期待されます。

## 2 算数



### (1) 結果

「数と計算」「図形」においては、全国平均をやや上回っていました。「変化と関係」「データの処理」では、全国平均より低い傾向にあります。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「 $1050 \times 4$ の計算をする」「14と21の最小公倍数を考える」といった基礎的な計算については全国平均を大きく上回っていました。朝の時間を活用するなど、反復学習の成果が表れています。また、「プログラミング」についても全国平均を上回っています。普段の学習において、1人1台端末を用いて学習を進めた成果が表れています。課題としては、「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」は、全国平均を下回っていました。問題を正しく読み取る力を付けさせるために、要点を捉え、的確に問題に答えることができる指導を行っていきます。

### (3) 学力向上のための取り組み

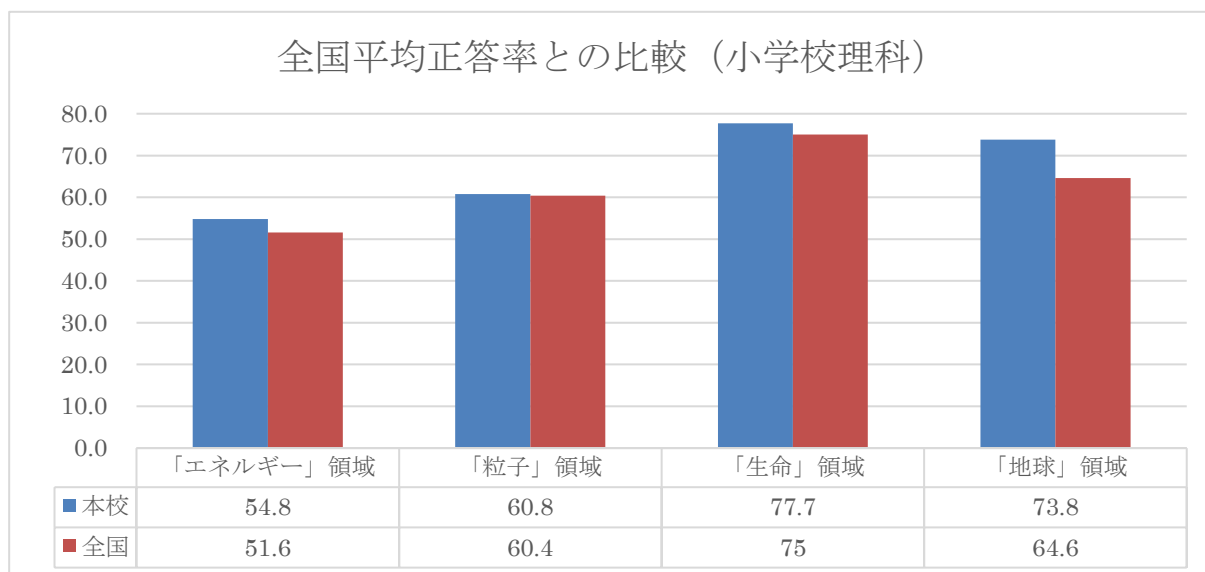
#### 【学校では】

- 普段の授業で、問題に対する考え方をノートに書いたり、学び合いを通して考えを交流させたり、発表し合ったりすることを取り入れています。式と答えだけでなく「なぜ、その式になったのか」を書かせたり、友達との考えとを比べたりさせながら、問題解決の過程を重視していきます。
- 公式をただ覚えさせるだけでなく、図や式、言葉を結び付けて理解させていきます。
- 個別のつまずきを把握し、TTや少人数授業でのきめ細かい指導をしていきます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのかなど、ドリルやプリント等の宿題やテストに目を通してください。そして、お子さんに励ましや称賛の言葉をたくさんかけてください。
- 実際の生活場面で「買い物で割引や値上がり」「ニュースに出てくるグラフや統計データ」「お菓子を分けるとき」など身の回りで算数を意識させてください。算数科で学習したことが使えると、実感できる体験が興味・関心を高めることにつながります。

### 3 理科



#### (1) 結果

「エネルギー領域」「地球領域」においては、全国平均をやや上回っていました。「粒子領域」「生命領域」では、全国平均とほぼ同じ傾向にあります。

#### (2) 成果と課題

今回の調査では、「観察、実験の結果を基に、解釈して自分の考えをもつ」ことについては、全国平均を上回っていました。観察、実験という体験を重視して、普段の授業を進めた成果と考えます。さらに、観察、実験の結果から分かったことをきちんと自分の言葉で文章化させた成果だと考えます。課題としては、「昆虫の体のつくりを理解している」「日光は直進することを理解している」ことが挙げられます。学習したことを、知識として定着させるために、生活と関連させて考えさせる指導を行っていきます。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 引き続き、観察、実験という体験活動を中心として、学習を進めていきます。
- 何のために観察、実験を行うのかという目的意識を児童にもたせて、学習を進めていきます。
- 学習する内容は、生活の中のどのような場面で見られる現象なのか、生活と理科の学習とのつながりを児童に意識させる指導を充実させていきます。

##### 【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科に興味・関心をもたせるための手立てとして、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。どうしてバルーンは空を浮かぶのか、どうして川の上流の石は大きいのに下流の石は小さいのかなど、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。

## 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	82.9%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	51.4%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	62.9%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	17.1%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	22.9%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	71.4%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.4%	83.9%

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

「自分にはよいところがあるか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」の項目が全国平均より低い傾向にあります。学校や家庭で児童一人一人の良さを認め合えるような言葉かけをしていく必要があります。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	22.9%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	7.7%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	12.9%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	34.3%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	30.1%	25.8%
「30分より少ない」	10.4%	10.5%
「全くしない」	4.6%	4.2%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が5割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

### (2) 改善に向けての取り組み

#### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字」「プリントやドリル」を出し、基礎・基本の学習内容を定着していきます。
- 学習や生活について、一人一人の児童の伸びを見逃さずに、認め励ますことで自己肯定感や向上心を高めていきます。

#### 【ご家庭では】

- 「まなざし週間」での励ましのお言葉は、子供たちの自己肯定感を高めています。「佐賀県家庭学習の手引き」や「雄飛学園メソッド」を再確認し、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。
- テレビやゲーム、タブレット等の家庭でのルールを話し合い、学習や生活のリズムを整えさせるように心がけてください。